

黒部川の下流部、7kmは、治水機能の向上と水道用水や農業用水の開発を目的とした黒部川総合開発事業により貯水池化され、東総



「黒部川貯水池の水質改善について」  
(執筆者)  
香取地域整備センター  
小見川出張所  
出張所長 藤塚 正吾氏

# 河口堰だより

発行所  
独立行政法人水資源機構  
利根川下流域総合事務所  
利根川河口堰事務所  
TEL 0478-86-0477

地域の重要な水源池となつていきます。また、貯水池の水辺は、レガッタ、ボート、カヌー等の水上スポーツの場として親しまれており、今年8月には、全国高等学校総合体育大会のボート競技が開催される予定となっております。

しかしながら、近年、流域の都市化の進展等に伴い水質の汚濁が進み、淡水赤潮や異臭味の発生などによる利水障害が発生してきており、水道事業者などから水質改善が求められています。

このうち、県が実施する河川事業では、黒部川上流部と黒部川に流れ込む玉川、桁沼川の3箇所にて河川浄化施設を設置し汚濁量の削減を図るとともに、貯水池内に浄化水流機と流



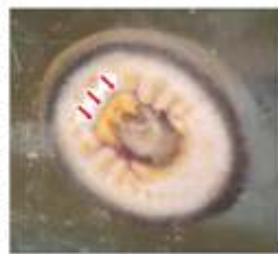
動化や植生による浄化を推進することとして進捗状況としましては、黒部川浄化施設が平成13年1月に、玉川浄化施設が平成14年4月に、また、桁沼川浄化施設も平成17年3月に完成し運転を行っているところであります。

# 生物図鑑

目くろしあまの「ヤツメウナギ」



ヤツメウナギは、脊椎動物のなかで最も原始的な仲間であり、口は吸盤状となっており、あごを持っていません。この魚は、眼とならんで、7つのエラ穴を持つており、本当の眼が8つあるように見えるため、「ヤツメウナギ」という名前が付けられたそうです。



内では、少数しか採捕されていない、とても珍しい魚であるそうです。利根川河口堰で実施している今年度5月の魚類等調査において、この珍しいミツバヤツメが魚道下流部で1尾確認されました。

○施設見学会の実施  
毎年、8月1日から7日まで水の週間となっています。利根川河口堰管理所でも、この水の週間に合わせてイベントを開催しています。今年8月7日(日)にイベント

「ヤツメウナギ」は、ヤツメウナギ類の総称であり、いくつもの種類に分類されるそうです。日本国内では、カワヤツメ、シベリアヤツメ、スナヤツメ、ミツバヤツメ等が知られています。これらのうち、ミツバヤツメは、口の中の歯が3本(他のヤツメウナギ類は2本)あり、日本国

# イベント案内

○水郷おみがわ  
ふなつり大会  
東庄町観光  
ふなつり大会に参加



施設見学会でのシヤボン玉の様子



ふなつり大会の様子

トを開催します。家族で楽しんで頂けるような企画を計画していますので、是非お立ち寄り下さい。

# 編集後記

当管理所内の展示ホールには、「河口堰文庫」として、小学生向けの川や魚、環境などに関する、様々な本が準備してあります。川で見つけた魚の名前を調べたり、夏休みの研究などいろいろなことを利用してほしい。また、川に関するDVDや河口堰ホームページの視聴も出来ます。是非、展示ホールをご利用ください。利用可能時間は、午前9時から午後5時までとなっています。

この広報誌に関するご意見・ご感想、並びに利根川河口堰へのご質問等は下記までお寄せ下さい。また、見学も受け付けています。広報担当、メンテナンスグループ様形(かまがた)、までご連絡ください。  
〒289-0611  
千葉県香取郡東庄町新郷2276番地  
水資源機構 利根川下流域総合事務所  
利根川河口堰事務所  
TEL 0478-86-0477  
FAX 0478-86-3457  
E-mail : tonekako@topaz.ocn.ne.jp

# 利根川下流沿川紀行

## 印旛沼伝説

千葉県は気候温暖で房総半島は三方に海を控え、まさに海の幸、山の幸に恵まれ、古代人にとっても生活しやすい所であった。そしてとくに、水辺に近い江戸川、利根川沿いの北総大地に貝塚跡が集まり大小の古墳も多く見られる。なかでもJR成田線下総松崎と安食間の丘陵地帯に古墳群が密集している。この辺りは大化の改新以前「印波国造」という地域豪族が支配して

いた。印旛沼を西南に望む赤松林に覆われた台地に印波氏一族の墳墓と思われる大小120余りの「竜角寺古墳群」が並び印波氏の勢威を偲ばせる。

この古墳群の北方に和銅2年(709)に建立された竜角寺がある。本尊は奈良時代前期の様式の薬師如来坐像、白鳳時代の遺産は、これと東京麻布の深大寺釈迦像似かなくないという一品だ。そして今から5千年前頃に間氷期で縄文大海進となり印旛沼周辺も広大な湖水域となり人々に大きな恵みをもたらしたと思われる。そして竜角寺にこんな伝説が伝えられている。昔この辺りが早稲に見舞われた時、村人が雨乞いをしていると、印旛沼の主であった竜が現れ村人たちのために天に昇り待望の雨を降らせてくれたが、雷鳴とともにその体は頭、胴、尾の三つに裂けて天から落ちた。そこで村人たちは頭が落ちた所に竜角寺(栄町)胴が落ちた所に竜腹寺(本桝村)、尾が落ちた所に竜尾寺(八日市場)を建立し竜の魂を祀ったといわれている。

印旛沼が如何に人々の暮しに密着していたかが伺える。

(利根川愛好会会長 林 敏夫)



竜角寺(栄町)



竜腹寺(本桝村)



竜尾寺(八日市場)

## 新任のご挨拶

4月1日付けの異動で、利根川下流総合管理事務所副所長兼利根川河口堰管理所長に赴任いたしました。高橋武彦です。平素から利根川河口堰管理業務につきまして、格別のご理解、ご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

利根川河口堰は、昭和46年に管理を開始以来、「地域を守る潮止め堰」として地域に寄与して参りました。この度、利根川河口堰管理事務所と霞ヶ浦開発総合管理所を統合し、利根川下流総合管理所として生まれ変わりました。このことにより組織を

合理化するとともに、今までの効率的な業務運営を推進してまいります。

私たちは、利水者や地域住民のニーズを把握し、的確に施設を操作するとともに日常的な監視・点検、コスト削減を考えた施設の更新を行い、安全で適切な施設管理を行って参ります。また、地域の水環境の保全にも積極的に貢献し地域や利水者から信頼される堰管理を目指して参ります。さらに、イベントの開催、展示ホールを充実するなど積極的に情報を提供するとともに地域の行事および清掃活動に参加し地域との交流・連携をさらに深



所長 高橋武彦

め開かれた顔の見える事務所運営を目指し職員一同取り組んで参ります。利根川河口堰管理事務所は、今までどおり、「ユーザの声」「利根川下流沿川紀行」など河口堰に関わる様々な情報発信を目的として「河口堰だより」の発行を継続していく予定です。そしてこの「河口堰だより」を通じて利根川河口堰が地元の皆様により親しまれ、身近な施設となることを願っています。

## 工事のお知らせ



利根川河口堰では、昭和46年4月から管理開始後、既に34年が経過しており、施設の老朽化が進行しています。当管理所では、重大事故が発生しないように予防保全の観点から、施設の整備を鋭意、進めているところです。

平成16年度は、各関係機関等へご説明を行い、各市町村への広報誌掲載などのご協力と地元住民の皆様のご理解とご協力を頂き、利根川大橋の全面通行止めを行ってのゲート整備が出来たことに感謝する次第です。

今年度も昨年同様の利根川大橋の全面通行止めを行いゲート整備を実施することとしております。平成17年度の対象は、調節門1号(千葉県側)を予定しております。現在、整備に伴う工程を検討中であり、日時については、未定です。なお、工事等に伴う通行止めのお知らせは、各関係機関を通じて、また各市町村の広報誌への掲載をお願いするとともに、当管理所入り口に設置

している電光掲示板および予告板等にて事前に周知することとしております。利根川大橋の通行止めは、地域住民の方々へ多大なご迷惑をお掛けすることとなりますが、ご理解とご協力の程、よろしくお願い致します。



ドラムギア撤出作業



ドラムギア搬入作業

## 短信・河口堰

### 「利根川下流総合管理事務所」としてスタートしました

利根川河口堰管理事務所は、霞ヶ浦開発総合管理所と統合し、平成17年4月1日より「利根川総合管理事務所 利根川河口堰管理事務所」として生まれ変わりました。

利根川河口堰 職員一同

茨城県稲敷市(旧東町)

に総合管理所を置き事務の一元化を図り、利根川河口堰には、総合管理所の技術職の副所長が所長を兼務し、旧名の技術職の体制で施設を管理して参ります。

私たちは、今後とも「地域を守る潮止め堰」

